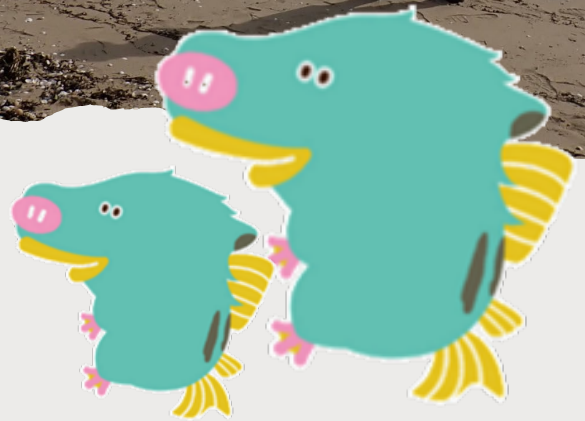
矢作川流域圏懇談会
令和５年度川部会まとめの会
活動実績と計画について

2024年1月22日（月）



写真：市民部会企画　山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」バスツアーより

令和５年度 当初目標と活動実績

令和5年・6年の活動目標

○流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。

テーマ別の活動目標

①河道に関する課題（本川・支川）

○ 上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。

②流域に関する課題

○ かわまちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有いただく。

○ 流域の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画できる場を創出する。

③交流・共有に関する課題

○ 川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携を深める。

令和５年度 当初目標と活動実績

＜1＞今年度の活動実施状況と今後の予定

活動実施状況（参加者数）		日時	場所
6月	第62回ＷＧ（23名）	6月20日（火）	豊田市崇化館交流館
8月	第63回ＷＧ（15名）	8月22日（火）	豊田市崇化館交流館
1月	第64回ＷＧ（年度まとめ）	1月22日（月）	西三河総合庁舎

今後の活動予定		日時（暫定）	場所
R6年 6月活動	第65回ＷＧ	6月	未定
8月活動	第66回ＷＧ	8月	未定
10月活動	川部会まとめの会	10月	未定

令和５年度 当初目標と活動実績

＜2＞テーマ別の活動目標に対する活動計画について（テーマ①河道、②流域、③交流・共有）

○前述したテーマ別の活動目標に対し、目標達成に向けた活動計画を策定していくため、3つのテーマに関する課題、アイデア、提案等の意見を付箋紙に記し、出てきた意見についてカテゴリー分けを行った。これらのカテゴリーを踏まえ、今後の活動計画や方針、課題等について意見交換を行った。

【意見交換の内容を一部紹介】

- 治水・利水・環境のバランスについて、今まで土砂が一つの鍵になるというのが共通認識であったが、今後は流域治水に合わせて考えていくことになると思う。
- FWを川部会の活動として位置付けるという意向がはっきりでている。
- 生きものの棲みやすい川づくりという当初からの目標は継続していくことでよいと思う。
- 矢作川流域圏懇談会で話し合ったことを具体化していく経路を考える必要がある。
- 情報を集約し、形としてアウトプットしていくことを企画しなければいけないと思う。
- これからは流域治水ということで、流域に住んでいる方々に「川をどうしていきたいか」等の視点を投げかけていくことも役割となってくるのかと思う。

みなさんが出したアイデアを確認・整理

アイデアのとりまとめの様子

会議室での意見交換の様子

令和５年度 当初目標と活動実績

＜3＞昨年度の矢作川関係卒業研究の紹介について（テーマ①河道に関する課題（本川・支川））

○内田座長の研究室（愛知工業大学土木工学科）の卒業研究から、矢作川の生物に関する研究内容を5つ紹介いただき意見交換を行った。

【卒業研究テーマ】

・矢作川水系におけるカワヒバリガイの分布
・矢作川の瀬における底生動物の広域定点調査
・矢作川時瀬における置土実験が造網性トビケラ類へ与えた影響
・矢作川水系におけるコナガカワゲラ属の調査
・矢作川水系におけるヒメドロムシ科の生息状況

卒業研究の紹介の様子

【意見交換の内容を一部紹介】

・矢作川では、河床の攪乱不足により様々な生物に影響がでていることがわかっている。ダム湖内での砂利採取や砂防事業などが河床の攪乱不足の要因となっていると考えられる。
・アユの不漁には、カワシオグサやコケ植物、オオカナダモの繁茂が関係している。そして、これらの植物に伴って、トビケラや外来生物のカワヒバリガイなどが沢山生息するようになり、より一層、河床の攪乱不足になっている。
・造網性トビケラ類は、河床の撹乱が増えると減る。一方で、川底に潜って生息するコナガカワゲラ属やヒメドロムシ科は撹乱が増えると増えることがわかった。

令和５年度 当初目標と活動実績

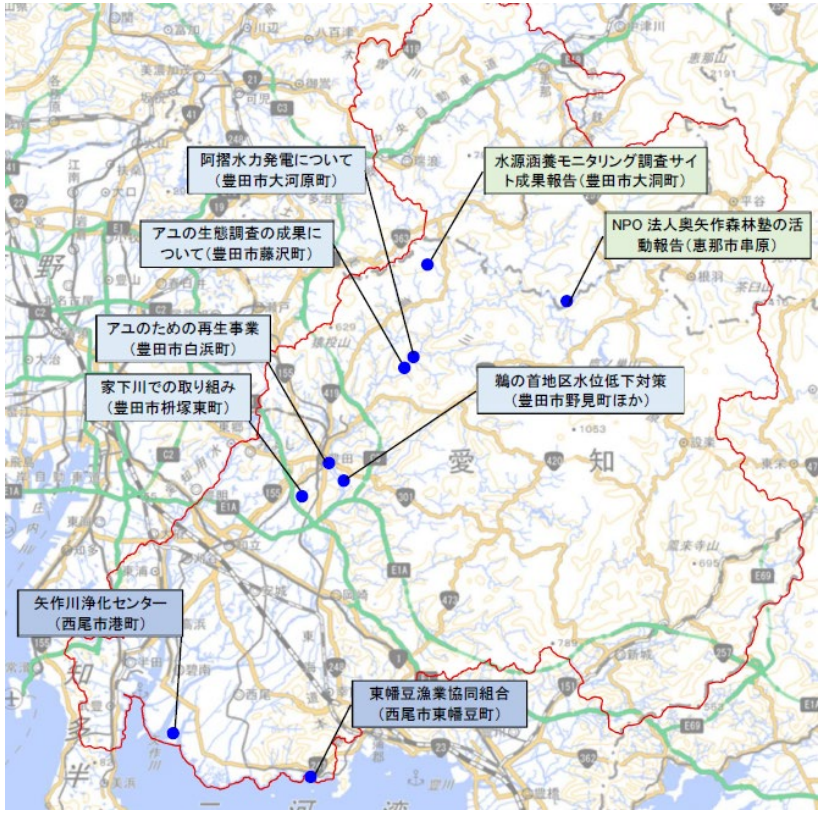
＜4＞地域部会合同でのバスツアー

○地域部会間の共通認識の隔たりを補完することを目的として、他部会に紹介したい矢作川流域の団体や場所を巡るバスツアーを開催した。

○9/13,14 の2日間で延べ32人が参加した。

○アンケートの回答者全員が「所属外の部会で中心命題としている矢作川流域の課題を『知ることができた』もしくは『少し知ることができた』」と回答した。

【アンケートの内容を一部紹介】
- 山、川、海それぞれに課題があり、全体の協力が必要だと感じた。
- 他部会員との議論が良かった。
- バス移動中の各座長から解説や見解、現地での質疑応答は課題を知る・考える糸口となった。
- ツアーで感じたこと、考えたことについて、意見交換の場が欲しい。



バスツアー訪問先位置図

東幡豆海岸にて

第13回の全体会議に向けての展望＜活動目標＞

令和5年・6年の活動目標

○流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。

テーマ別の活動目標

①河道に関する課題（本川・支川）

○ 上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。

②流域に関する課題

○ かわまちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有いただく。

○ 流域の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画できる場を創出する。

③交流・共有に関する課題

○ 川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携を深める。

第13回の全体会議に向けての展望＜事務局案＞

令和6年のテーマ別の活動内容＜事務局案＞

第62・63回川部会WGにて挙げられた活動案の中から、令和6年のテーマ別の活動内容について、事務局案を以下に示す。

①河道に関する課題（本川・支川）

○ 越戸ダムや小渡町で実施されている土砂実験状況について、出水期前後にFW（現地視察）を行い、事務所より説明し意見交換を行う（中・下流の地形・州にどのような影響を与えているか等）。

②流域に関する課題

○ 流域治水事業箇所を事例に取り上げ（流域治水×かわまちづくり・グリーンインフラ、市町の取り組み等）、その区間のFWを行い、多視点（防災・減災、水利用、生態系、娯楽等）から流域に関する意見交換を行う。

③交流・共有に関する課題

○ 生態系ネットワーク協議会や流域の農業団体など、外部団体に参加してもらい交流を深めるための仕組みづくりについて議論する。

第62･63回川部会で挙がった活動案

①河道に関する課題

生き物について

・開発により残された河川が陸上生物のネットワークとなっているため、
河川及び陸域の生態系ネットワークに着目した講演会を実施する。

・河川に棲む魚（ウナギ、アユ）について意見交換を行い、
本流、支流、水田の魚の移動を促進する方法を議論する。

・川に棲む生物についてSNSでの情報発信や野外での見学会を行う。

・河川の生物の棲みやすい環境について意見交換を行う。

流域について

・水質汚染物質が流域から流れ込むことによる負荷の現状について共有する。

・流域治水の現状を共有する。

・行政・電力・農水それぞれの観点から利水・水循環の現状を共有する。

第62･63回川部会で挙がった活動案

①河道に関する課題

FW・現場

- 矢作ダムで実施される土砂実験状況の視察を行い、
  中・下流の地形・洲にどのような影響を与えているか見学する。
- 本流と巴川合流点付近（明治用水堰から天神岩津橋まで）の
  アユの産卵地についてFWを実施する。
- 今までの川部会で訪問した、白浜工区から支川などの
  経過や成果・結果について再検討する。
- 懇談会員だけでなく外部の人を巻き込んだ
  河川・遊水地施設の予定地・計画・実際の現場の見学や検討を実施する。
- 上・中・下流の河川公園について保全と利用の検討のために視察と実施する。
- 支川の川づくり前と後の見地の状況（成果と課題）について意見交換を実施する。
- 河川施設及び観測施設を見学し、現況と改善について意見交換を実施する。
- 河川周辺でのウォーキングやマラソン、山登りなど、
  川を絡めたイベントを実施する。
- 現在、計画が実施されている菱池遊水地の議論を行う。

第62･63回川部会で挙がった活動案

②流域に関する課題

問題や課題の共有・意見交換

- 理想の河川像について整理し、不足しているもの等について意見交換を行う。
- 矢作川の歴史を踏まえ、治水・利水・環境のバランスの取れた矢作川のあるべき姿について、流域懇談会で問題を共有し、意見交換して確認を行い、懇談会員が問題に向かっていくようにする。
- 土砂の流れの増大が河床の形態が変化し、生物や人の利用にどのような影響を及ぼすか予測して議論する。
- 河川ポイントの改善点をデザイン化した場合、どのような経路で達成を目指すのかを議論する。
- 流域全体の問題、流域周辺の各地の問題に対する活動や施策の共有を行う。
- 本川「川」のストーリーに影響している要因と要因への対応について議論する。
- 支川「川」の環境を決めているハビタット（部品）の抽出と検討について意見交換を行う。
- 土砂供給等の川として海への責任についてまとめる。
- 流域治水事業箇所を事例に取り上げ、その区間のFWを行い、説明と情報交換を行う。

第62･63回川部会で挙がった活動案

②流域に関する課題

かわまちづくりについて

・「流域治水+かわまちづくり」のイベントとして公開講座等を企画する。

・乙川でのかわまちづくりに関する活動について、
岡崎市や市民団体の方に話題提供いただく。

・豊田市白浜地区でかわまちづくりを実施しており、
この活動を地域の人に親しみを持ってもらう。

・まち（川）を歩き、まずは流域を知ってもらう。

防災について

・災害の履歴やどのような防災をしてきたかを学び、
災害が発生した際の行動を考える機会を作る。

・歴史・文化的な場所、災害伝承地の施設、景観の良い場所をピックアップする。

・水部の危険と対策について講演を行い、
親しみやすい水辺について意見交換を行う。

第62･63回川部会で挙がった活動案

②流域に関する課題

その他

・矢作川カーボンニュートラルプロジェクトに関する情報共有や意見交換を行う。

・上下流でお互いのことを考える。

・健全な水・土を創出する森林へのお願いや
水をため、地下へ浸透させる農地へのお願いをまとめる。

第62･63回川部会で挙がった活動案

③交流・共有に関する課題

川部会について

・特定の人が仕切るのではなく、どこまでも民主的に部会を進める。

・どこまでの情報を共有するのか、意見交換をどこまで行うか議論する。

・流域圏懇談会が何をする団体かを明確にする。

・川部会企画による山部会・海部会との合同部会を開催する。

・現在の構成メンバーへの出席を促し、毎回２件以上、活動の紹介をしてもらう。

過去の活動について

・これまでの川部会での活動や情報をテーマ別にまとめ、資料として共有する。

・「活動」のアウトプットの整理、分類を行う。

・総合的に矢作川が持っている負の部分、
改善の必要な部分などを列挙した表を作成する。

第62･63回川部会で挙がった活動案

③交流・共有に関する課題

イベントについて

・他団体の開催するイベントに参加し、活動紹介等を行う。

・誰に知ってもらうか協議する。
（協議会内や部会内であれば講座、その他であれば一般向けイベント等）

対外的な共有について

・行政との協議をどう計るか議論する。

・生き物の棲みやすい川、流域の農業団体への
理解・啓発をどのように展開するか議論する。

・情報発信についてテレビ等のマスコミを上手く利用する。

・大学などに流域圏の活動を紹介するポスターを掲示する。

・中部いい川WS in矢作川に川部会所属の方にも参加してもらい、
外部団体との交流・共有を図る。

・個々に情報発信してもらえるよう魅力ある「かわづくり」を行う。